2022年8月号
（公財）札幌市公園緑化協会　旭山記念公園管理事務所

アカゲラ通信

蛾（が）と呼ばれるチョウ、チョウと呼ばれる蛾

チョウに分類される昆虫の中には、多くの人々に蛾と呼ばれるチョウが何種類かあります。

蛾と呼ばれるのは「全体的に茶色で単色またはまだら模様」の種類で、タテハチョウ科の一部とセセリチョウ科の大部分のチョウです。ここではその中から旭山で見られる種類についてお話しします。

■タテハチョウ科　①**ヤマキマダラヒカゲ**：春から初秋まで長く見られます。翅を広げてとまることは皆無で茶まだらの裏側しか見られないですが、表側は橙色がかった茶色で、飛翔時は橙色っぽく見えます。

②**ヒメキマダラヒカゲ**：夏から秋まで。色彩感には乏しいですが表側の模様のパターンがきれいです。

③**クロヒカゲ**：春から秋まで長く見られ、旭山でいちばん多く見られるチョウです。クロと名がつくものの黒というほど色が濃くはなく、雄は焦げ茶色、雌は明るい茶色です。翅の裏に目玉模様があります

④**ヒメウラナミジャノメ**：初夏のチョウで8月までには見られなくなります。翅の表裏に目玉模様があります。

■セセリチョウ科　⑤**キバネセセリ**：夏のチョウです。森の家の中に次々と入って来て人にも平気で寄りつき、それを気持ち悪がる人がいて余計に蛾と・・・他にコキマダラセセリ、⑥**コチャバネセセリ**などセセリチョウ科の多くは茶色系で蛾と呼ばれやすいです。

また、焦げ茶色の翅のシジミチョウ科のカラスシジミも蛾だと思う人がいるかもしれません。

一方でチョウと呼ばれる蛾もいます。⑦**ヒロオビトンボエダシャク**がその代表ですが、羽が白黒ストライプ、昼行性でひらひらゆっくり飛ぶといった特徴からチョウのように感じられます。なお、シャクガ科の蛾の幼虫が「尺取虫」です。

●鱗翅（チョウ）目のうち「シロチョウ科」「アゲハチョウ科」「シジミチョウ科」「タテハチョウ科」「セセリチョウ科」に分類されるものが「チョウ」、それ以外は「蛾」ということになります。チョウは「触角の先が幅広くて扁平かバトン状」になっているのが特徴です。とまる時に翅を閉じるか開くかは種によります。体が太いのが蛾との俗説もありますが、セセリチョウ科は体が太く、だから蛾と呼ばれやすいのかもしれません。イカリモンガやオオミズアオなど色彩感のある模様の蛾もいます。

レストハウスぽるく通信　2022年8月

7月開催の旭山記念公園フォトコンテスト、投票の結果、グランプリ写真は「シマエナガ（幼鳥）」(写真)に決まりました。投票数 281。全ての写真にほぼまんべんなく票が入る大接戦！　多くの方が足を止めてゆっくりとご覧になられてました。

今回のフォトコンテストをきっかけにレストハウスぽるくにご来店されるなど、たくさんの方に野鳥写真を楽しんでいただきました。撮影者ご本人様も来店され、撮影エピソードなど貴重なお話もいただき、さらに旭山記念公園の自然・野鳥の魅力を感じました。ありがとうございます。

写真展は無事7月末を持って終了いたしました。展示していた写真パネルは撮影者様にお渡ししますので、まだお持ちではない方はご来店時にスタッフまでお声掛けください。今後もこのような企画に是非ご参加いただければ嬉しいです。「こんな企画があったら嬉しい！楽しい！」といったお声もお待ちしています。

※ぽるく営業時間：*OPEN*＝10時、*CLOSE*＝日～木曜日17時、金・土曜日・満月の日21時

旭山野鳥メモ㊵センダイムシクイ

センダイムシクイ Easten Crowned Warbler *Phylloscopus coronatus* スズメ目ムシクイ科

日本で夏鳥、越冬地は東南アジア。例年4月30日前後に来札。8月お盆過ぎには南に渡るが、遅れた個体が10月まで見られることがある。広葉樹林に生息、道内の森林ではいちばん鳴き声を聞くことが多い野鳥。渡りの時期以外に森を離れることはほとんどなく市街地にもほぼ来ない。

「チヨチヨビー」という囀りは昔から「焼酎一杯グイー」と聞きなしされるがそれでは音数が合わないのか、今風に「チキチキピース」といわれる。6月に「チュリチュリ」と激しく鳴いた後囀ることもある。地鳴きは「ヒュッ」。

英名に入る「王冠」と学名の種小名「コロナ」が示すように頭に特徴があり、頭頂部から後頭部に白濁色の帯が入り、これがどれも外見が似るムシクイ類他種との外見上の識別ポイント。山の斜面に位置し高低差のある旭山では上からこれが見えることがある。体色は淡い鶯色。

センダイムシクイの名前の由来は、囀りが人形浄瑠璃の「伽羅先代萩（めいぼくせんだいはぎ）」という演目の登場人物である「鶴千代君（つるちよぎみ）」と聞こえることから名づけられたという説が有力。宮城県仙台市とは関係ないが、杜の都仙台でもこの鳥は多いに違いない（もちろん鹿児島県薩摩川内市とも無関係）。

センダイムシクイは7月にいったん落ち着いた後8月にまたよく囀るようになる。毎年8月に囀りを聞くと、「今年もそろそろお別れ、また来年！」と告げているかのよう。夏から秋への移ろいを感じる野鳥だ。

2022年8月の野鳥トピックス

- **オオルリ**：幼鳥の観察情報が例年より多いです。囀りはやみました
- **キビタキ**：7月下旬から囀りがやみ幼鳥も見られています
- **コサメビタキ**：幼鳥が見られています。ひらひら飛ぶ鳥です
- **クロツグミ**：幼鳥が見られています。囀りは聞かれなくなりました
- **メジロ**：今年は数が多いように感じられ囀りも聞かれています
- **クマゲラ**：園内での観察情報は少ないです
- **オオアカゲラ**：幼鳥が見られており（右写真）成鳥の観察情報も多いです
- **アカゲラ**：幼鳥含め森の家の周りでよく見られています
- **ヤマゲラ**：森の家周辺でときどき見られていますが今年は例年よりこの時期の観察情報が多いです
- **カラ類幼鳥**：シジュウカラは2度目の雛が巣立ったようです。ヤマガラ幼鳥だいぶ成鳥の色になってきました
- **シマエナガ**：7月後半から見る機会が減りましたが、まだ顔にわずかに黒い部分が残る幼鳥も見られます

旭山ミニ自然図鑑2022年8月　～セミが鳴く～

○エゾシカ１歳雄 「ゴボウ角」

○エゾシカ親子　夏は鹿の子模様

○カラスシジミ　蛾ではなくチョウ

○トノサマバッタ　パタパタ飛ぶ

○エゾゼミ　低音で「ヴィーーン」

○コエゾゼミ　高音で「ビーー」

○ダイコンソウ　夏によく見る花

○ネジバナ　今年は旭山でも咲いた

公式サイト

「アカゲラ通信」　第１０４号　　２０２２（令和４）年８月５日発行
（公財）札幌市公園緑化協会　旭山記念公園管理事務所
https://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/　　〒064-0943　北海道札幌市中央区界川４丁目
電話 011-200-0311（金・土・日・祝日 10 時～16 時）FAX 011-200-0351